



ひとつぶの種

杭州日本人学校
学校便り第152号
令和3年11月号

学校の強みを知り、それを生かす！

金木犀が香り、木々の葉が色づき始める季節となりました。暑かった日々がようやく過ぎ去り、杭州に秋が巡ってきました。学校では、杭州っ子たちが「実りの秋」とするべく、学習活動に日々取り組んでいます。

去る10月22日（金）に、第45回東アジア・大洋州地区日本人学校長研究協議会が開催されました。外務省及び文部科学省等の来賓を交え、同地区39校の日本人学校長が参加する、リモートでの協議会となりました。今回、本研究協議会の課題別研修②「選ばれる日本人学校について（特色ある学校づくり）」において、本校の取り組みを発表する機会に恵まれました。テーマが「特色ある学校づくり」であることから、本校の数ある教育活動事例に鑑みて、以下4点についての紹介をいたしました。

- (1) 幼小中一貫校ならではの異学年交流（幼稚部を併設していることによる、他校には見られない園児から中学生までの交流活動や小中学部の「杭州っ子班」活動等について）
- (2) 小学部での教科担任制の導入（教師の専門性を生かすことで授業の質が向上する点や複数の教師が子どもに関わるメリット等について）
- (3) 音読資料を活用した日本語環境の確保（音読資料集「声に出して」の活用について）
- (4) 現地理解教育・現地校との交流活動（週1時間の中国語学習、現地小学校の児童及び大学生との様々な交流活動等について）



今回の発表は、私にとりまして本校の教育活動を改めて深く掘り下げて見つめ直す好機となりました。学校の規模（園児児童生徒数や教職員数）や立地条件等からくるメリット、デメリット等にしっかりと向き合うこと。これこそが「小規模校ならではの」「小規模校だからこそ」といった**本校の強みを生かす**ことにつながっていくのだと思います。杭州っ子たちの明るい未来に向け、その可能性を今まで以上に広げていく学校教育活動に、今後とも教職員全員の共通理解の下、取り組む所存です。杭州っ子が、ここ杭州を第二の故郷として日中友好の懸け橋となることを願い、日々尽力して参ります。

読書は心の栄養

秋と言えば「読書の秋」。昨年も一昨年も記載しましたが、日本では10月27日（水）から11月9日（火）までの2週間が「全国読書週間」です。今年の読書週間の標語は、「最後の頁を閉じた 違う私が出た」です。

「読書は心の栄養」と言われているように、本から得るものは知識や情報だけではありません。行ったことのない国や未知の世界に想像の羽を広げて自由に羽ばたくこともできます。さらに、美しい文章や表現に触れることで、感性が磨かれ、心もより豊かになっていきます。身体が栄養を取らないと成長できないように、心にも栄養が必要です。読書はその一つの栄養源とも言えます。

学校では、11月の生活目標を「たくさん本を読もう」とし、図書委員会が「読書祭りスタンプラリー」や「多読賞の表彰」といった取り組みを行います。

秋の夜長に、ご家庭で読書に親しむ時間を作っていただければ幸いです。お気に入りの本との出会いは、「一生の友だちを得たと同じ」という人もいます。また、子どもの頃に身に付けた読書の習慣は、一生の宝です。この秋、たくさん本を読み、心にたっぷりの栄養を与えてほしいと願っています。